

国立病院機構熊本医療センター

くまびょうNEWS



“第3血管造影室が新設されました！”

【特集】

腎臓内科のご紹介

- VOICE
- 医学シリーズ 循環器内科
- くまびょう TOPICS
- 研修医レポート
- 研修のご案内
- 外来担当医名簿

患者さまをお待たせしないためにご紹介は、
外来紹介予約センターをご利用ください。



熊本医療センター
地域医療連携センター長
菊川 浩明



096-353-6565 096-353-6566

FAX 096-353-6563

受付 平日 8:30 ~ 17:00

国立病院機構熊本医療センター 外来紹介予約センター

独立行政法人国立病院機構
熊本医療センター
National Hospital Organization Kumamoto Medical Center



熊本医療センター 検索 ホームページ QR コード

特集

腎臓内科のご紹介

Philips Azurion7 C20 がはるばるオランダから到着しました。ウクライナ情勢のため、4月1日からの運用開始予定が延期になってしまいましたが、無事、4月13日よりオープンすることができました。新型で被ばくがはるかに少なくなりました。造影室専用のエコーも富士フイルムのFC1-X VAにリニューアルしています。念願の専用无影灯も備え付け、長期留置カテーテル挿入の際の手術操作においても安全性が飛躍的にアップしました。床も木目調を使用して、あたたかい雰囲気でおむかえできるようになりました。

おかげさまでご紹介が増えており、2021年度は血管造影室を使用する手術処置が666件でした。枠の確保が深刻な問題となっておりましたので、少し“ほっ”としています。術者が増えるわけではありませんので、ある程度はお待ちいただくこととなりますが、少し短縮できるのかなと思っています。どうぞご利用ください。

CKDの領域では、SGLT2阻害薬やミネラルコルチコイド受容体拮抗薬がACEI/ARB以来の

20年ぶりのインパクトを与えています。蛋白尿のチェックはいかがでしょうか？陽性であればぜひご紹介ください。お薬や栄養の調整をご案内させていただきますと思います。すこしでも患者さまの透析導入を回避もしくはさらに先のばしできるように、患者さまのためにみなさまと“ご一緒させていただきたい”がわれわれの願いです。

高血圧の領域では、二次性高血圧のチェックはいかがでしょうか。若い・比較的若い患者さまは一度はチェックがおすすめです。重度高血圧の方では、心不全を思わせる呼吸症状の有無だけでなく、眼の症状や腎機能障害や蛋白尿はないでしょうか。悪性高血圧の可能性があり、急い対応と腎生検が必要なことが多いです。気になる患者さまがいらっしゃいましたら、ぜひともお気軽にお問い合わせ・ご活用いただければと思っております。

みなさまのおそばに、さらに近く寄り添えるような腎臓内科をめざしています。

腎臓内科部長
かじわら けんご
梶原 健吾



基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

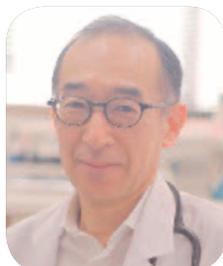
1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります

VOICE

登録医の声

特定医療法人 谷田会
谷田病院

院長 やつだ 谷田 りいちろう 理一郎



◆貴院のアピールをお願いします

谷田病院は、人口1万人の甲佐町をはじめ、御船町、美里町、山都町など周辺地域の方が受診にみえられる99床の慢性期病院です。

人生の大切な時間を、健康で、しかも自分の大好きな故郷で過ごす。誰もが願うそういう「希望」の実現に向け、谷田病院がお手伝いしています。笑顔を少しでも増やせるトータルヘルスケアを目指し、医療、福祉からまちづくりまで、さまざまな活動に取り組んでいます。

◆先生の趣味・お勧めスポットを教えてください

最近のお勧めは、甲佐町にある古民家イタリアンレストランのサンヴィートです。ランチ・ディナーのどちらも楽しめます。



◆当院へのご要望をお聞かせ下さい

熊本医療センターの先生方、いつも大変お世話になっております。認知症や精神症状がある救急患者の治療が困難な中、快く受け入れて頂き、感謝しております。

貴院の断らない医療の実践は、地域医療の支えとなっており、とても助かっています。今後も貴院のご活躍をお祈り申し上げます。

【診療科目】

内科、糖尿病内科、代謝内科、内分泌内科、呼吸器内科、循環器内科、小児科、リハビリテーション科、整形外科

【診療受付時間】

月曜～土曜

【午前】 8:00～11:30

(診察時間 9:00～12:00)

月曜～金曜

【午後】 13:30～17:00

(診察時間 13:30～17:30)

【休診日】

土曜午後、日曜、祝日、年末年始

【住所】

〒861-4601 熊本県上益城郡甲佐町岩下123

【TEL】

096-234-1248

【FAX】

096-234-1249



最近のトピックス

「心不全」について

国立病院機構熊本医療センター
循環器内科部長たやま しんじ
田山 信至

●心不全とはなにか。

心不全とは「心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気」です。

心不全は病気の名前ではありません。心臓機能が低下して、全身が必要とする血液を送り出せない状態を言います。心臓に何らかの異常があっても頑張って血液を送り出そうとしますが、無理が続くと疲れ果て、やがてはバテてしまいます。

つまり、心臓の病気（心筋梗塞、弁膜症や心筋症）や高血圧などによる負担が続き心不全という症候群に辿り着いてしまうのです。

●ポンプ機能低下による症状「疲労感・冷感」と血液うっ滞による症状「息切れ・呼吸困難・むくみ」

正常な心臓は1分間に約5Lの血液を身体中に送るポンプとして働いています。うまく送り出せなくなると、たくさんの血液を溜め込むことで補おうとします。心不全の症状には、収縮機能つまりポンプ機能低下により血液が全身にいき渡らないことによる症状と拡張機能すなわち血液がうっ滞することによる症状に分けられます。

●心不全の予防、悪化させないための心がけ：

- ・塩分を控え、バランスの良い食事を心がける
- ・薬を飲む理由をよく理解し、きちんと決められた通りに内服する

※自己判断で薬の量を変えたり勝手にやめたりしない。



- ・高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病に注意する
- ・タバコはやめる、過度な飲酒は避ける

●特徴的な症状：夜間の呼吸苦、起座呼吸

息切れ症状の始まりは、坂道や階段を登ったときに息切れする程度です。進行すると、少し歩いたり、身体を動かしただけでも息苦しくなります。そしてもっと悪化すると、安静にしても症状が出るようになります。横になって数時間すると、夜中に咳が出たり、息苦しさで寝られなくなることもあります。こうした症状は、身体を起こした姿勢だと良くなるのが特徴で、「起座呼吸」と呼び、即入院治療が必要です。

また、高齢者の心不全では、こうした自覚症状ははっきりしません。息切れ症状があっても、「年のせいだから」と見過ごされがちです。放置したまま重症化して、夜中に呼吸困難で運ばれてくる患者さんも少なくありません。家族の観察で心不全を疑ったら、早めにかかりつけ医師に相談してください。



●家族や周りの人が気がつくポイント：

- ・元気がなくなった
- ・肩で息している
- ・苦しそうな表情をしている
- ・活動量や食事量が減った

心不全でお困りのことがございましたら、お気軽にご相談ください。

東京都臨時医療施設に出向してきました。

感染症内科部長・国際医療協力センター長
おの 小野 宏



写真1
手前のプレハブが臨時医療施設の一角。後方の建物は東京病院。

東京都臨時医療施設<写真1>とは、国の施策医療として国立病院機構が国立病院機構東京病院敷地内に設置した臨時のコロナ診療医療施設であり、実質的には都による運営がなされ、東京都内の軽症から中等症I程度（一部は緩和医療としてのハイフロー使用患者も受け入れ可）のコロナ患者を受け入れ診療を行います。最大80床として運用され、出向時には30名弱程度の患者さまが入院していました。東京都内のクラスターが発生した老人施設や、障がい者施設からの受け入れが主体で疎通困難な方、徘徊・暴力行為を行うなどや対応が困難な方も含まれていました。施設はプレハブで構成されているものの、“独立した病院”であり、医師控室・看護師控室・カンファレンス室<写真2>・薬剤室・給食室（仕分けのみ）・検査室・CT室・事務室・仮眠室等と陰圧病棟（2棟あり、それぞれにステーション<写真3>とスタッフ休憩室を備えます）で構成されていました。電子カルテはEGMAIN-GXが導入され、Wi-Fiも標準整備されており、病棟内red zoneではノートPCを移動させながら診療を行い、スムーズに診療参加できました。その他病棟装備も人工呼吸器2台、ハイフロー20数台、最新型エコー装置、搬送用陰圧ベッド・陰圧車いす、その他一般薬剤から挿管時薬剤まで一式揃っていました。一方の医師は国立病院機構本部の要請を受け、日本全

国の機構関連病院から自ら挙手して集まった医師で構成され、3年目の医師や専攻医から統括診療部長、副院長・院長、審議役に至るまであらゆるレベルのあらゆる診療科（呼吸器内科・感染症内科のみならず！）のバックグラウンドをもって参加していました。診療の内容は東京病院治療マニュアルをベースとしたゾーニング、診療プロトコルのもと、朝夕の同院松井院長とのカンファレンスを行いながら診療が展開されました。その他、都や保健所との交渉、家族や施設との交渉なども含め対応範囲が広いのが特徴でした。

振り返りますに、2020年のダイヤモンドプリンセス号下船客ならびに外国人クルーの診療に国立病院機構千葉東病院に出向した当時は、COVID-19という言葉そのものもあやふやでエビデンスのない状況、タイベックを装着しつつ、ある意味“身の危険を感じながら”診療していたことを思い出します。今回のミッションではおびたしいエビデンスと、熊本医療センターでの過去2年間におけるCOVID-19感染対策スキーム構築や重症COVID-19診療の経験を踏まえ、自信に満ちながら東京の地を踏むことができました。そして、看護師、薬剤師も同様に全国から参加しており、医師同様に一定期間を経て入れ替わるシステムであり、スタッフ相互の円滑なコミュニケーションが何よりも大切な業務でした。



写真2
カンファレンス室の光景。
毎朝多職種カンファレンスが開かれます。



写真3
病棟ナースステーションから病棟を臨む。
各ベッドにモニターカメラが設置されており、患者状況が一目瞭然。全てが最新式の装備です。

業務の間における熱い議論は非常に有意義であり、コロナ診療に前向きなスタッフもつ使命感、熱い心をお互いに感じる素晴らしい機会ともなりました。今後とも引き続き当院において全国の仲間を意識しながら、コロナ診療に邁進したいと思います。そして、こうした支援業務に興味をもつスタッフの皆様におかれましても、ご自身のさらなる成長のために是非ご参加されることをお奨めいたします。

最後になりましたが、今回の業務におきましては救急科櫻井先生、深水先生に代診のご協力を賜り実現できたものであり、この場をお借りしまして深く感謝申し上げます。誠に有難うございました。

研修医レポート

臨床研修医

浦川 朋也
うらかわ ともや



こんにちは。研修医2年目の浦川朋也と申します。熊本大学病院の初期研修プログラムで初期研修を行っており、1年次は熊本大学病院で研修させて頂いておりましたが、4月から1年間熊本医療センターで研修させて頂くことになりました。私は自治医科大学出身なのですが、自治医科大学卒業生が熊本医療センターで初期研修させて頂くのは私が初めてですので自治医科大学の役割、システムをご説明させて頂き、今後の抱負を述べさせて頂きます。

自治医科大学は全国の地域医療に貢献すべく設立されました。システム自体は「地域枠」に近いのですが、学費は実質無料である代わりに県庁職員として県の指定する医療が不足する地域に基本的には総合診療科、もしくは内科医師として派遣される「義務年限」を9年間過ごす必要があります。ただし、義務年限中に初期研修の2年間と自分の専門領域などキャリアアップのための1年間の研修期間（後期研修）があることから地域派遣期間は6年間となります。個人のキャリア形成、特に内科以外の診療科に関してはまだまだ課題が残りますが、総合診療科の國友先生、吉村先生はじめ卒業生の先生方は地域医療の経験を活かしてそれぞれ独自のキャリアを形成されております。

私も来年度から熊本県内の地域で勤務することとなります。初期研修期間に医師として基本的な手技や知識を身につけ、地域で活躍できる医師となれるよう精一杯研修させて頂きますのでご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

臨床研修医

安部 禎人
あべ よしひと



はじめまして。将来情熱大陸に取り上げられることが夢の研修医1年目の安部禎人と申します。熊本大学を卒業し4月より熊本医療センターで初期臨床研修をさせて頂いておられます。始まって2ヶ月ほど経ちますが慣れない環境の中、先生方やスタッフの皆様を支えられながら日々頑張っています。

私は4月に麻酔科から研修が始まりました。業務に関して何もできない状態からのスタートで苦労しましたが、先生方に厳しくも優しく教えていただき、充実した研修ができています。麻酔科は手技が多く、ルート確保、マスク換気、気管挿管や脊髄くも膜下麻酔など

数多く経験させて頂きました。うまくできないことばかりでしたが、経験していくうちに徐々にできるようになってきたと思います。しかしそれは自分1人の力だけで成長したわけではありません。例えば気管挿管するときも、周りの看護師さんが補助して下さり、きちんとコミュニケーションを取らなければ上手く挿管することができないことを学びました。また、上手くできなかったときは後々に先生からフィードバックを受けて次に繋げることができました。一緒に麻酔科で研修している同期と話し合うことでコツを知ることもありました。周囲の人がいるおかげで日々成長できているのだと実感しております。

浅学非才の身であり取り柄が元気しかないの、皆様にはご迷惑を多々おかけすると思いますが、一つ一つ成長し、よりよい医師に近づけるように精一杯努力していきたいと思っておりますので、更なるご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

臨床研修医

伊藤 明香
いとう みるか



こんにちは。研修医1年目の伊藤明香と申します。産業医科大学医学部を卒業し、4月より熊本医療センターで初期臨床研修をさせて頂いておられます。慣れない病棟業務や、カルテの操作方法などでご迷惑をおかけすることも多いですが、先生やスタッフの皆様への感謝の毎日です。

私は消化器内科で研修をスタートしました。消化器内科では、まず超音波検査の手技を学びました。他の画像検査に比べて低侵襲ですが、検査を行う術者の技量に左右されます。最初は手探りでしたが、少しずつ自分が描出したいアングルを出せることも増えて充実感を感じて

います。内視鏡の検査や治療、肝細胞癌のラジオ波焼灼療法も勉強させて頂いています。

また、各科診療科と並行し救命外来での当直業務も行っています。はじめは限られた時間の中での確に円滑な医療が提供されている現場に驚くばかりで、自分の役割を冷静に考えることができませんでした。チームの一員として自分が何をすべきなのかが落ち着いて考える力や患者さまに寄り添った診療能力の基礎をこれからも学び続けたいです。患者さま自身は1次から3次までの疾患が分からないことが多いからこそ、断らない医療が大切だと痛感しています。

熊本医療センターの基本理念である、“最新の知識・医療技術と礼節を持って、良質で安全な医療を目指す”の一端を少しでも担えるよう、日々精進していく所存です。これから2年間の様々な科における研修で多くの経験を積み、医療従事者としての素養を身につけていきたいと思っています。

最後になりましたが、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

2022年7月研修のご案内

第162回 公開看護セミナー

日時▶ 7月2日(土) 13:00~15:30
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修ホール

「身体抑制0への取り組み」

石川県看護協会 小藤 幹恵 会長

第36回 臨床薬理セミナー

日時▶ 7月3日(日) 13:00~16:00
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修ホール

「薬薬連携 皆で作ろう、シームレスな薬物治療を提供できる環境」

〔日本医師会生涯教育講座3.0単位認定〕〔日病薬病院 薬学認定薬剤師制度2単位(Ⅲ-2)申請中〕

〈講演1〉 当院で実践する薬薬連携及び薬剤師への期待

国立病院機構熊本医療センター診療部長/消化器内科部長 杉 和洋

〈講演2〉 八代地域における薬薬連携

八代薬剤師会センター薬局 薬局長 佐藤 良太郎 先生

〈講演3〉 診療報酬改定から見る薬剤師評価の方向性~薬剤師連携評価 現状と課題~

日本血液製剤機構事業本部事業戦略部参事 谷澤 正明 先生

二の丸モーニングセミナー

日時▶ 7月5・7・12・14・21・28日(火・木) 8:15~8:45
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修ホール

第37回 メディカルスタッフのための人工呼吸セミナー

日時▶ 7月9日(土) 8:50~16:20
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修ホール

〈講演1〉 呼吸生理の知識と血液ガスの見方

国立病院機構九州医療センター救命救急部長/救命救急センター長 野田 英一郎 先生

〈講演2〉 人工呼吸を要する各種病態とフィジカルアセスメント

久留米大学医学部医学科救急医学講座主任教授/久留米大学病院高度救命救急センター長 高須 修 先生

〈講演3〉 スタッフが知っておかなければならない各種換気モードと特徴について

国立病院機構熊本医療センター救命救急部長/救命救急センター長 櫻井 聖大

〈講演4〉 一歩すすんだ呼吸管理法 ~医療安全・感染制御・PADマネジメントの観点から~

山口大学大学院医学系研究科救急・総合診療学講座教授/医学部附属病院先進救急医療センター長 鶴田 良介 先生

第281回 月曜会(内科症例検討会)

〔日本医師会生涯教育講座1.0単位認定〕

日時▶ 7月11日(月) 19:00~20:00
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修室2

1 総合診療科からの一例 2 救命救急部からの一例

第135回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会

日時▶ 7月13日(水) 17:30~18:30
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修ホール

熊本県臨床衛生検査技師会一般検査研究班月例会【WEB】

日時▶ 7月14日(木) 18:30~20:00

第86回 医歯連携セミナー

日時▶ 7月14日(木) 20:00~21:30
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修ホール

「糖尿病について」

座長 熊本市歯科医師会医療管理 理事 有働 秀一 先生

演者 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志

第147回 総合症例検討会(CPC)

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶ 7月20日(水) 19:00~20:30
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修ホール

「造血幹細胞移植後に肝類洞中心静脈閉塞、肺胞出血を来した60代男性」

小児科火曜会【WEB配信あり】

日時▶ 7月26日(火) 19:00~21:00
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修室1

第53回 診断と治療-最新の基礎公開講座-

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶ 7月30日(土) 15:00~17:30
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修ホール

座長 熊本中央病院 院長 濱田 泰之 先生

「前立腺がんの画像診断と放射線治療」

(1) 前立腺がんのMRI 熊本中央病院放射線科医長 梶原 博生 先生

(2) 前立腺がんに対する外照射 国立病院機構熊本医療センター放射線治療科部長 富高 悦司

(3) 限局性前立腺がんに対する新しい治療戦略~密封小線源療法を用いたFocal Therapyの導入~

国立病院機構熊本医療センター泌尿器科副部長 前田 喜寛

※今後の感染状況や熊本県の動向を踏まえ、急遽中止させていただく場合がございます。

最新の情報は当院ホームページでご確認いただくか、事務局までお問い合わせください。

研修へのお問い合わせはこちら

国立病院機構熊本医療センター

地域医療研修センター (096) 353-3515 (直通)

研修センター

QRコード▶



患者さまをお待たせしないために

ご紹介は、外来紹介予約センター

受付 平日 8:30 ~ 17:00

をどうぞご利用ください。

096-353-6565 096-353-6566

FAX 096-353-6563



熊本医療センター
地域医療連携センター長
菊川 浩明

令和4年7月外来担当医名簿

国立病院機構熊本医療センター



診療科		月	火	水	木	金	
総合医療センター (内科)	総合診療	辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子	辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子	辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子	辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子	辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子	
	血液	河北 敏郎 杉谷 浩規	原田 奈穂子 神谷 千晴	榮 達智 井上 佳子	日高 道弘 河北 敏郎	原田 奈穂子 窪田 晃	
	糖尿病・内分泌	西川 武志 (午前新患) 西田 周平 (午前再診)	西田 周平 (午前新患) 西川 武志 (午前再診)	西川 武志 (午前新患) 井手口 拓弥 (午前再診)	木下 博之 (午前新患) 裕大 (午前再診)	井手口 拓弥 (午前新患) 木下 博之 (午前再診)	
	呼吸器センター	名村 亮 原 英記 (院内コンサルト)	小野 宏 熊大医師 (院内コンサルト)	(午前紹介/院内コンサルト) 原 英記		名村 亮 原 英記 (院内コンサルト)	小野 宏 原 英記 (院内コンサルト)
	感染症内科	小野 宏	小野 宏			小野 宏	小野 宏
	腎センター (腎臓内科)	梶原 健吾	吉井 隆一	中村 朋文	松下 昂樹	富田 正郎	
腫瘍内科	境 健爾	境 健爾 達智	境 健爾 博隆	境 健爾	境 健爾 達智		
消化器病センター (消化器内科)	診 察	石井 将太郎 松山 太一 山本 祐弥	杉 和洋 中田 成紀 向坂 健佑	杉 和洋 石井 将太郎 佐々木 大亮	杉 和洋 松山 太一 山本 祐弥	中田 成紀 向坂 健佑 佐々木 大亮	
	内視鏡	午前	中田 成紀 向坂 健佑 佐々木 大亮	松山 太一 佐々木 大亮	松山 太一 山本 祐弥	中田 成紀 向坂 健佑	石井 将太郎 松山 太一 山本 祐弥
		午後	中田 成紀 向坂 健佑 佐々木 大亮 松田 暖	石井 将太郎 松山 太一 山本 祐弥	中田 成紀 松山 太一 山本 祐弥	中田 成紀 石井 将太郎 向坂 健佑 山本 祐弥	石井 将太郎 松山 太一 山本 祐弥
	腹部超音波	杉 和洋 松田 暖	石井 将太郎 松田 暖 山本 祐弥	中田 成紀 向坂 健佑 山本 祐弥	石井 将太郎 大亮 山本 祐弥	杉 和洋 松山 太一	
心臓血管センター (循環器内科)	診 察	田山 信至 山下 裕章 (新患) 木村 優一 (新患)	藤本 和輝 拓光 (隔週 新患) 奥野 佑樹 (隔週 新患)	片山 哲治 (新患) 日下 裕章	田山 信至 (新患) 友宏 長倉 拓光 奥野 佑樹	和輝 (新患) 片山 哲治 木村 優一	
	(心臓血管外科)	手術日	岡本 健実 岡本 実	岡本 実 田中 睦郎	手術日	岡本 実	
精神・神経科	初めての方 2回目からの方						
小児科	診察	水上 智之	濱口 正義	水上 智之	水上 智之	小山 真輝	
	免疫	水上 智之		水上 智之 担当医			
	血液	右田 昌宏				右田 昌宏	
	アレルギー		緒方 美佳		緒方 美佳 平井 奈美	平井 奈美	
外科	東 孝暁 日高 香織 (隔週)	水元 孝郎 松本 谷崎 卓実	野元 大地	宮成 信友 松石 梢	久保田 竜生		
脳神経センター (脳神経外科)		中川 隆志 大塚 忠弘	手術日	田嶋 恒三 大塚 忠弘	中川 隆志	斎藤 大嗣 大塚 忠弘	
	1 診 2 診	幸崎 弥之助 高松 孝太郎	田北 智裕 小阪 崇幸	高松 孝太郎 津田 幸元	小阪 崇幸 幸崎 弥之助	津田 幸元 田北 智裕	
整形外科	午前	福元 哲也 福田 和昭 寺本 周平	手術日	福元 哲也 前田 智和 福田 和昭	手術日	前田 智 中馬 東彦	
	午後	福元 哲也 福田 和昭 寺本 周平		園武 茜		富野 航太	
泌尿器科	前田 喜寛 銘切 晋吾	菊川 浩明 鮫島 智洋 村上 栄敏	担当医 (手術日) (紹介のみ)	前田 喜寛 銘切 晋吾 山中 達郎	菊川 浩明 東 俊之介 / 担当医		
産婦人科	高木 みか 坪木 純子	山本 直 小林 克	手術日	高木 みか 坪木 純子	山本 直 小林 克		
感覚器センター (眼科)	榎木 大輔 幸野 理久 中西 美穂	(手術日)	榎木 大輔 幸野 理久 中西 美穂	(手術日)	榎木 大輔 幸野 理久 中西 美穂		
感覚器センター (耳鼻咽喉科)	手術日	上村 尚樹 志茂田 裕	手術日	担当医	上村 尚樹 志茂田 裕		
感覚器センター (皮膚科)	初診 (紹介あり)	中原 智史	牧野 公治	中嶋 仁美	草場 雄道	牧野 公治	
	再診 (その他 初診)	中原 智史 草場 雄道	牧野 公治 西 葉月	中原 智史 中嶋 仁美	草場 雄道 西 葉月	牧野 公治 中嶋 仁美	
形成外科	(午 後) 大島 秀男 (リンパ浮腫外来) 東野 哲志 石田 拓也 大塚 駿太	(午 後) 担当医 (紹介のみ)	手術日	(午 後) 大島 秀男 東野 哲志 石田 拓也 大塚 駿太	(午 後) 大島 秀男 石田 拓也 大塚 駿太		
放射線科	治療 (予約制) 画像診断	富高 悦司、山田 茂雄 根岸 孝典、浅尾 千秋、伊藤 加奈子、井上 聖二郎、幸村 紘子、吉松 俊治					
麻酔科	宮崎 直樹 (術前診察 / 麻酔相談)	休診				(午前のみ) 瀧 賢一郎 (麻酔相談)	
緩和ケア外来	磯部 博隆	榮 達智	磯部 博隆	磯部 博隆	磯部 博隆		
歯科 口腔外科	森 久美子 (隔週) 谷口 広祐 中尾 美文 早川 真奈 前田 顕誠 (隔週)	中島 健 森 久美子 谷口 広祐 (隔週) 中尾 美文 早川 真奈 (隔週)	中島 健 谷口 広祐 中尾 美文 早川 真奈	中島 健 谷口 広祐 中尾 美文 早川 真奈	中島 健 谷口 広祐 中尾 美文 早川 真奈		
救命救急センター	櫻井 聖大 橋本 克孝 山田 周 國友 耕太郎 吉村 文孝 深水 浩之 杉野 大樹	櫻井 聖大 橋本 山田 周 國友 耕太郎 久保崎 順子 深水 浩之 杉野 大樹	櫻井 聖大 橋本 山田 周 深水 浩之 木村 文彦 杉野 大樹	櫻井 聖大 橋本 山田 周 深水 浩之 木村 文彦 杉野 大樹	櫻井 聖大 橋本 山田 周 深水 浩之 宮内 大介 杉野 大樹		
看護外来	ストーマ	認定看護師	認定看護師	認定看護師	認定看護師		
	がん看護 移植後フォローアップ	専門看護師 (午前) 専門看護師 他	専門看護師 専門看護師 他	専門看護師 専門看護師 他	専門看護師 専門看護師 他		
薬剤師外来	がん化学療法 薬剤師	薬剤師	薬剤師	薬剤師	薬剤師		

(注) 担当医は都合により変更することがあります。手術日はお待たせする場合がございますので、御了承ください。

R4/7/1